

日本語の標語に対するルーマニア語の翻訳

—略語を用いた標語に焦点をあてて—

スマランドユ・アンネ・マリ・クリスティン

1. はじめに

国際交流基金の2021年度日本語教育期間調査結果¹によると、ルーマニアの日本語学習者は1892名である。これは世界的に見ても、それほど多くはないが、ポップカルチャーや伝統芸能を知りたいと思う学習者は多く、2018年度の学習者数1389名と比べても、日本語を学んでいる学習者が増えてきている。日本語学習には至らずとも、日本文化に対して興味を持っているルーマニア人は今後さらに増えていくと考えられる。ルーマニアは英語が理解できる人が多いため、日本語で書かれたものを英語翻訳されたものを読む人が多い。だが、日本文化に関する知識を広く届けていくには、日本語で書かれたものをルーマニア語に翻訳されたものを増やしていくことも重要である。

翻訳とは、主にある語で書かれたテキストを別の言語によって書かれたテキストへと変換することである。テキストによっては、単純に翻訳することが可能である。例えば、「Eu mănânc înghețată.」は「私はアイスクリームを食べます。」と訳すことが可能である。「Eu」は「私」、「mănânc」は「食べます」、「înghețată」は「アイスクリーム」である。日本語の文章には、主語を示す助詞「は」と、目的語を示す助詞「を」がある。

しかし、場合によっては、言語的、歴史的、社会的文脈などの側面も含めて翻訳することが必要である。例えば、「"Atacul de noapte" a fost o bătălie între armata condusă de Vlad Țepeș împotriva armatei condusă de sultanul Mahomed al II-lea al Imperiului Otoman.」は「夜襲は、ヴラット・ツェペシュ率いる軍とオスマン帝国のスルタン・ムハンマド2世率いる軍との間の戦いであった。」と翻訳される。これはルーマニアの歴史上のエピソードを表している。「Atacul de noapte」は単なる夜襲ではなく、この言葉を聞けば誰もが思い浮かべるであろう、ある特定の事件である。ヴラド・テペスは軍とともにオトマンの陣営に忍び込み、オトマンの服に身を包んで敵を攻撃し始めた。敵は混乱し、いつしか自国民を攻撃し始めた。その夜以来、すべての文書、そして未来のすべての歴史書は、このことを「Atacul de noapte」と呼んでいる。たった1つの文の中に、言語的と歴史的の側面が入っている。

加えて、翻訳の難しいものに、標語がある。標語とは、主張や心情、行動の目標や指示内容などを完結に言い表した語句である。標語の形には、耳に慣れ親しむように、「運転はゆとりとマナーの二刀流」のような五七五調のものや、目で見てすぐ覚えられるように、「3密」のように動詞になりうる複数の名詞を組み合わせた略語を用いたものがある。このよう

に、その言語の特徴が現れやすい、音のリズムや文字を利用して作った標語の翻訳は非常に難しいと考えられる。

本研究では、略語の一部である標語に着目して、日本語からルーマニア語でどのように翻訳が可能かについて検討を行う。

2 先行研究

2.1 略語について

略語とは、内容を短縮したり、ある語の一部を何らかの方法で省略または簡略したりしても、なお元の意味を保っている語である (Doom 2, 2005)。略語の使用目的は、文の長さを短くすることで、発話や筆記、機械を使った音声や文字の入力、そして通信および印刷などの効率を高めるためである。隠語にも略語が用いられることも多い。

略語は、広義で捉えた場合に頭字語も含まれることがある。頭字語は常に単音節または二音節の単語であり、表現の最初の文字が使用される。ここからは、日本語の類似点と相違点、そして日本語が持つ独特の特徴を見つけるために、ルーマニア語や英語の例文を分析し、日本語の例文と比較する。これらの具体的な特徴を見つけた後、どうすればルーマニア語に翻訳できるかを分析し、今後の翻訳数を増やす。

2.2 ルーマニア語の略語

ヴィルク・マルセラ (Vilcu Marcela) によれば、ルーマニア語には 3 種類の略語がある (Vilcu, 2019)。ルーマニア語の略語には、trunchierea (切り捨て)、acronim (頭字語)、sigla (ロゴ)、の 3 種類の単語形成プロセスがある。

2.2.1 Trunchierea (切り捨て)

Trunchierea (切り捨て) とは、単語の最後の部分「apocopă」(語尾音消失) または最初の部分「afereză」(語頭音消失) を削除する単語形成のプロセスである。例えば、映画館を意味する「cinematograf」は最後の「tograf」を削除し、「cinema」となる。この方法は、主に普通名詞 (通常は複合名詞) や固有名詞に関するもの使われるが、数字にも見られることがある。

Afereză では、音素または音素のグループが省略されるが、それはほとんどの場合、母音・母音のグループである。例えば、「物静かな」を意味する「astâmpăr」は最初の「a-」を削除し、「stâmpăr」となる。

一般名詞の例

cinematograf → cinema (映画館)	expoziție → expo (博覧会)、
bacalaureat → bac (高校+の卒業試験)	matematica → mate (数学)、
profesor/ profesoară → prof/ profă (先生)	diriginte → dirig/ dirigă (担任)、

Petruța → Tuța (女の名前)

Ionică → Nică (男の名前)

固有名詞の例

Teodora → Teo

Raluca → Ralu

男性の名前には、省略された語に、接尾辞「-i」が付く場合もある。

Costin → Codi

Gabriel → Gabi

数字の例

șaptesprezece → șapțișpe (17)

douăzeci și cinci → douășcinci (25)

2.2.2 Acronimul (頭字語)

Acronimul (頭字語) は、複合語に対して、個々の単語の最初の部分をまとめて一つの語にして作られる。例えば、「Plafar」のように、複数の単語を組み合わせて使うこともできる。これは、薬用植物という意味の「Plante Farmaceutice」の2つの語が合わさった複合語の略語である。イニシャルと単語の一部を組み合わせたもの、例えば「TAROM」のようなものもある。「T」は「transport」のイニシャル、「A」は「aerian」のイニシャル、「ROM」は「Român」の最初の半分である。これは、ルーマニアの航空会社を意味する「Transport Aerian Român」の略語である。

Acronimul の例

aprovizionare cu zarzavaturi → Aprozar (野菜と果物のお店)

ARHivele Olteniei → ArhO (学術誌のお名前)

Unibuc = Universitatea București

2.2.3 Sigla (ロゴ)

Sigla (ロゴ) は、複合語の単語の最初の文字だけを使って形成されるものである。これには、発音の観点から、2種類のロゴがある。第1は、文字そのものを一つずつ発音するパターンである。例えば、「C.F.R.」は「Căile Ferate Române (ルーマニアの国営鉄道会社)」の略語である。第2は、普通の言葉のように発音されるパターンである。例えば、「ANAF」は、「Agenția Națională de Administrare Fiscală」の略語である。

Sigla の例

FLLS = Facultatea de Limbi și Literaturi Străine

RATB = Regia Autonomă de Transporturi București

SNSPA = Școala Națională de Studii Politice și Administrative

2.3 英語

本研究は、日本語からルーマニア語に直接翻訳することを目指す。しかし、これまでの日本語からルーマニア語への本の翻訳は、まず、日本語から英語に訳され、次に英語からルーマニア語に訳されてきた。そのため、これまでの翻訳の方法も含めて検討するために、英語の略語についても検討を行う。

英語教育公認のウェブサイトによると、英語には 4 種類の略語がある (crownacademyenglish.com, 2017)。ルーマニア語の略語形成プロセスは 3 種類だったのに対して、英語には contraction (切り捨て)、acronym (頭字語)、initialism (頭文字)、shortening (ロゴ) という 4 種類がある。ルーマニア語の trunchiere は英語の contraction、ルーマニア語の acronim は英語の acronym になる。だが、ルーマニア語の sigla は英語の initialism と shortening に分かれる。一方、英語の initialism と shortening は略語形成プロセスが異なるものと考えられているが、ルーマニア語では同様として考えられている。

2.3.1 Contraction (切り捨て)

Contraction (切り捨て) は、単語の途中の文字を省略することで作られた略語である。例えば、「Doctor」は「Dr」と省略される。このプロセスはルーマニア語の trunchiere (切り捨て) のプロセスと同じである。

Contraction の例

Mister→Mr

2.3.2 Acronym (頭字語)

Acronym (頭字語) は、複合語の単語の最初の文字をとって新しい単語が形成された略語である。例えば、「National Aeronautical and Space (アメリカ航空宇宙局)」は各単語の最初の文字を抽出し「NASA」と作られる。ルーマニア語の頭字語と同じだが、英語は大文字で表記されることが多いのに対して、ルーマニア語では、必ずしもそのように表記されるわけではない。

Acronym の例

North Atlantic Treaty Organization →NATO

2.3.3 Initialism (頭文字)

Initialism (頭文字) とは、複合語の単語の最初の部分をとって、新しい単語が形成された略語である。Acronym との違いは、最初の文字を個別に発音するところにある。例えば、「as soon as possible (できるだけ早く)」は、ASAP という略語になる。これはルーマニア語の sigla と同じ用法である。

Initialism の例

VIP = very important person

AM = ante meridiem

PM = post meridiem

2.3.4 Shortening (ロゴ)

Shortening (ロゴ) は、単語の先頭または末尾が省略された略語である。略語になった結果、一語として扱われるものと、そうでないものがある。前者の例として、「application」を省略して作られた「app」がある。後者の例として、「February」を省略して作られた「Feb.」や「et cetera」を省略して作られた「etc.」がある。

2.4 日本語

日本語は、ルーマニア語や英語と異なり、平仮名とカタカナという表記文字と漢字という表音文字を持っている。また、語種も日本で本来使われていた和語と、中国から伝来して日本語になった漢語、中国以外の国から入ってきた言葉である外来語がある。このように、文字や語種の種類が多いことから、日本語の略語形成プロセスの種類は非常に多くなる(森岡, 1988)。例えば、複合語の一部を省略するような略語は、漢語名詞(「国際連合」→「国連」)とカナカナ名詞(「アルバイト」→「バイト」)のように、語種ごとによって異なることが考えられる。そのため、略語形成プロセスは、ルーマニア語や英語よりも複雑だと言える。

略語は本研究が焦点をあてる標語にも使われている。例えば、新型コロナウイルス感染症のパンデミックの際には、日本で非常に多く使われた「3密」という言葉がある。この略語は「密接」・「密室」・「密閉」という3語によって形成されている。この略語の形成プロセスは、形態素の音声面を捨て、最初の文字を抽出し、3という言葉を加えている。これは表意文字の特徴をうまく使った略語の方法だと言える。

同じ表意文字を使う言語に中国語とハングルがある。例えば、中国語には、1951年に提唱された官僚主義・汚職・浪費の三害に反対する国民運動の「三反」(sān fǎn: 反贪污・反浪费・反官僚主义)という言葉である。ハングルには高物価・高金利・高為替を示す「3高」(고물가・고금리・고환율)がある。

だが、中国語とハングルと比べても、日本語は「3〇」というパターンがよく使われている。なぜなら、日本語では、「3〇」のパターンは漢字だけでなく、3K(きつい・汚い・給料が安い)のように、ラテン文字で表し表音文字で作ることもあるからである。他にも、意味をまとめて、3景(松島・天橋立・宮島)とするパターンもある。

ルーマニア語には、このような略語を使った標語は非常に珍しい。共産主義国だった時代には、3R(Recuperare, Recondiționare, Refolosire)という標語もあるが、今はもう使われてお

らず、若い世代はそのことを学んだり聞いたりすることもない。したがって、ルーマニア語では、日本語の3〇という略語の標語を翻訳することは難しいと考えられる。

3 本研究の目的

略語の特徴をまとめた結果、ルーマニア語と英語は言語的特徴が似ていることから、同じような略語の形成プロセスを持つことがわかった。一方、日本語は漢字を使うが、ルーマニア語や英語とは異なる特殊性がある。漢字は意味を持つので、日本語での略語の使い方は異なる。そのため、よりよく理解するために、標語である「3密」と、それ以降の他の略語をより詳細に分析し、そのユニークな特徴を見ることである。

だが、日本文化の紹介等の文章の中に、このような標語が出てきた場合、その語の持つ特徴を伝えようとするには、日本語の標語の特徴を活かして、ルーマニア語の翻訳を行うことが重要であると考えられる。以上を踏まえ、本研究では、略語を用いた日本語の標語に対して、ルーマニア語ではどのような翻訳が可能かを検討する。この点について検討を行い、日本語の略語を用いた標語のルーマニア語翻訳の方法を議論する一助となることを目指す。

4 調査

略語を用いた日本語の標語に対して、ルーマニア語ではどのような翻訳が可能となるかを検討するために、日本語を学ぶルーマニア人大学生 12 名と日本語を学んだことがないルーマニア人 16 名（20～28 歳）に Google form を用いたアンケート調査を行った。

日本語を学んだことのあるルーマニア人の大学生は、日本語学習を 4 年以上続けており、中級以上の日本語能力がある。このレベルの学生を対象としたのは、ある程度日本語に関する知識を持っている人が翻訳をする場合、どのように翻訳するかを分析することを目的としたためである。また、日本語を学んだことがない人をも調査対象にしたのは、この人たちはルーマニア語話者として一番簡単な方法と言葉を選ぶ可能性があると考えたためである。また、日本語を学ぶ人と同じ解答をあげた場合には、その翻訳はやはり良いと考えられるからである。

4.1 調査項目

質問はルーマニア語で行い、ルーマニア語で解答がなされた。質問内容は、日本語からルーマニア語の翻訳に関する状況を知るための一般的な質問（1, 2）と、標語に関する具体的な方法を検討してもらう質問（3, 4, 5）である。なお、日本語を学ぶルーマニア人大学生 16 名には質問 1～5 を行った。日本語を学んだことがない人には質問 5 のみを行った。

質問項目 Chestionar pentru lucrarea de cercetare

「Când vine vorba de traduceri, în ce limbă citiți acele traduceri?」

「他言語で書かれた文章に対して、何語の翻訳で読んでいますか。」

2

「Când vine vorba de traduceri din limba japoneză (de orice fel: beletristică, informativ, juridic etc.), în ce limbă citiți traducerile? 」

「日本語の文章（ノンフィクション、情報、法律など種類は問わない）に関しては、何語の翻訳で読んでいますか。」

3

「Ce se întâmplă totuși atunci când acea abreviere nu există în limba română? Cum o vom traduce? Sau nu o traducem, dar oferim explicații? 」

「略語の形成プロセスがルーマニア語に存在しない場合、どう訳せばいいと思いますか。訳さずに解説をしたほうが良いと思いますか。」

4

「De ce credeți asta? Motivați alegerea făcută. 」

「どうしてそう思いますか。」

5

「Aș vrea să vorbesc mai în detaliu despre 「3密」. 「3密」 reprezintă cele 3 reguli care trebuiau respectate în timpul pandemiei de Covid19. În engleză, acest 「3密」 a devenit ”3C”.

Credeți că am putea să avem o versiune originală în limba română? Scrieți o posibilă variantă și explicația ei. 」

「3密（密接・密室・密閉）」という言葉に対して、ルーマニア語ではどのように翻訳されると思いますか。考えられる翻訳をいくつか書いてください。そして、それらの説明を書いてください。」

5. 結果と考察

5.1 日本語からルーマニア語への翻訳に関する状況

まず、日本語からルーマニア語の翻訳に関する状況について、アンケートから得られた結果を述べる。「他言語で書かれた文章に対して、何語の翻訳で読んでいますか。」という質問に対して、12名中8名が英語と答え、2名はルーマニア語と答えた。「日本語の文章（ノンフィクション、情報、法律など種類は問わない）に関しては、何語の翻訳で読んでいますか。」という質問対しても同様の割合であった。

ルーマニアでは、日本語が理解できる人が少なく、日本語訳の本の値段も高かったこと、多くのルーマニア人が英語をある程度理解できることから、多くの人が日本語訳ではなく

英語訳のものを読んでいたことが影響していると考えられる。ただし、義務教育課程で英語以外の言語を履修したため、英語を第二言語として持っていない人もいる。学校によっては、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語などの言語が必修授業の一部となっているため、英語の翻訳はあまり役に立っていない。また、様々な文化に触れることの重要性も鑑みると、日本語からルーマニア語への翻訳を今後増やすことが重要であろう。

5.2 略語の翻訳方法

次に具体的な翻訳方法を検討するために行った質問項目 3~5 の結果を述べる。質問 3「略語の形成プロセスがルーマニア語に存在しない場合、どう訳せばいいと思いますか。訳さずに解説をしたほうが良いと思いますか。」と質問 4「どうしてそう思うか」という解答に関して、12 名のうち 9 名が内容を直接翻訳するよりも、略語自体はそのまま表記し、ページの最後など、別の場所でその意味の詳しい説明を付ける方が効果的だと考えていることがわかった。その理由として、略語を無理に翻訳してしまうと、音やリズムの良さが伝わらなかつたり、意味がわからなくなつたりして、読者をより混乱させてしまう可能性があるからだと考えていることがわかった。

一方、3 名は「自分たちで翻訳を作る」と答えていた。この 3 人は、テキストを翻訳する場合、全体を翻訳することが重要だと感じていることがわかった。このように、翻訳の好みは略語に対する翻訳の考え方に影響している様子が窺われた。

質問 5「3 密（密接・密室・密閉）」という言葉に対して、ルーマニア語ではどのように翻訳されると思いますか。考えられる翻訳をいくつか書いてください。そして、それらの説明を書いてください。」という問には、回答者から、様々なアイデアが示された。以下に回答者のアイデアをまとめる。

「3 Î」 (2 名)

închis (閉じた), îngrămădit (混雑した), în apropiere (近くにある)

Spațiu închis (閉じた空間), îmbulzeală (混雑した), întrâniri (会議)

翻訳は優れており、日本のパターンも尊重している。これは、回答した 2 人が求められていることを理解していることを示している。

「3 A」 (1 名)

aer închis (クローズドエア), aglomerație (混雑した), apropiere (近くにある)

翻訳は優れており、日本のパターンも尊重したが、3 番目の単語はそのままではなく、その横にさらに説明が必要だと思われる。「apropiere」という言葉には「近くにある」という意味があったが、これを言うとき「近くにいてという意味であるか」・「近づかないようにするか」・「密接を避けるか」。もし私がこの研究を書かなかつたら、その答えが何を意味するのかよく分からない。

「3S」 (7名)

・ Spații închise (閉鎖的な空間)、Spații aglomerate (混雑した空間)、Spații fără distanțare socială (社会的距離のない空間) (3名)

Spații închise (閉鎖的な空間)、Spații aglomerate (混雑した空間)、Situatii de contact direct (直接接触する状況) (3名)

Spațiu închis (閉鎖的な空間)、Spațiu îngrămădit (混雑した空間)、Spațiu fără ventilație (換気のない空間) (1名)

今回の調査では、「3S」と解答した参加者が多かった。略している語が一部異なっているものの、すべての略し方に対して「spatiu」を使っている。3Sとし、Spatiuを使う事によって、3密の「密接・密室・密閉」というパターンに当てはめようとしていることがわかる。このことから、情報に対する理解度が全く異なっているにもかかわらず、言語情報の特徴を含めて翻訳しようとする傾向があると言える。

だが、このような傾向は、日本文化や日本語をほとんど知らない人を対象にした調査では異なる傾向が見られた。以下に結果を示す。

「3Î」 Închis (閉鎖的)、înghesuit (狭い)、în apropiere (近い) (1名)

「3D」 distanta (距離)、durata (持続時間)、contact direct (直接接触) (1名)

「3S」 spălare pe mâini (手を洗って)、stat afară (外で過ごす)、stat cu mască (マスクを着ける) (1名)

「3E」 Evitarea spațiilor publice (公共场所を避ける)、Evitarea spațiilor aglomerate (混雑した場所を避ける)、Evitarea situațiilor discuțiilor apropiate (親密な話し合いを避ける) (1名)

日本語を学ぶ大学生とは対象的に、日本語の3密という略語のパターンを尊重して、略語を作成した解答はこの4例のみであった。日本語を学ぶ学生たちは、「3S」に見られるように、共通の語を使用していたが、そうでない人たちを対象とした調査結果では、それが見られたのは「3E」の1例のみであった。

パターンを尊重したバリエーションが多い中、「3E」と答えた人は、日本語を勉強してきた人と同じ単語を使って訳していた。そう考えると、日本語を勉強している7人が考えた訳は、日本語を勉強していない人にも理解できるのではないかと思う。

これ以外に、以下のような解答が見られた。

「VAD」 ventilație (換気)、aglomerare (混雑)、distanță (距離) (1名)

「RAC」 Reguli ale Covidului (3の法則) (1名)

「Regula celor 3」 (3の法則) (4名)

RAC と Regula celor 3 は同様の意味だが、Regula celor 3 は、3密の「3」の影響を受けて、「3」を使用している。これらは、もはや略語ではなく、単なるフレーズとなっている。また、「VAD」と「RAC」は、すでにルーマニア語として存在しているが、まったく異なる意味を持っている。「VAD」は「見る」を意味し、「RAC」は「カニ」を意味している。

このように、すでにルーマニア語に存在する単語を使った場合、人々はそれらが実際に何を意味するのか混乱してしまうと考える。

6. まとめと今後の課題

本研究は略語を用いた日本語の標語に対して、ルーマニア語ではどのような翻訳が可能かを検討した。具体的には、日本語の「3密」を日本語がわかるルーマニア人とそうでないルーマニア人にアンケート調査を行い、どのような翻訳が可能かを検討した。その結果、半数の回答が日本語の「3密」と同じ構造を持つ、「3S」という翻訳を提案したものであった。だが、その解答の中には、単に「S」から始まる単語を用いればよいという解答と、同じ単語を使い、日本語の表音文字の特徴を捉えた解答があった。

また、この解答は、日本語を勉強している人とそうでない人とでばらつきがあった。その理由として、前者は日本語が高度な文脈性を持っていることを知っており、その知識を用いて、翻訳した可能性があるのに対して、日本語を勉強していない人やこの国の文化に馴染みのない人にとっては、分かりやすい略語が選択されたと考えられる。このことから、彼らのほとんどは標語の意味を理解することができたが、独自の解釈をすると、本来の日本語のパターンが失われてしまう様子が見られた。

本研究の結果から、12人の小グループの半数が同じ回答をした場合、あらゆる種類の略語の翻訳を見つけることが可能であると言える。さらに練習を積み重ね、英語を使わずに日本語からルーマニア語への正確な翻訳の数が増加するであろう。将来的には、翻訳の数を増やし、日本の言葉や文化に触れ続ける手助けをする一人になりたいと考える。

参考文献

- (1) DOOM 2: *Dicționarul ortografic ortoepic și morfologic al limbii române*
- (2) Vălcu, M. (2019). Tipuri structurale de abrevieri în limba română. In *Tendințe contemporane ale dezvoltării științei: viziuni ale tinerilor cercetători* (pp. 137-139).
- (3) Andrew (2017). *crownacademyofenglish.com*. Types of abbreviations <https://www.crownacademyenglish.com/types-english-abbreviations/>